

式 辞

今、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、我々人類の命を脅かしています。人はその脅威に立ち向かい必死に対応策を模索しています。安全面を考えた休校で、卒業式という晴れの舞台は在校生たちがいない、いつもと違う体育館……。我慢の時だと思います。休校が決まったとき、休校の前日に、この体育館でミニ卒業式が行なわれました。全員に見守られる中、6年生が入場し、5年生から手作りの卒業証書が渡され、歌を歌い、最後は握手をして退場しました。

今日の卒業式は出席できない1年から5年生の気持ちも込めてここに立っています。

皆さんとは2年間のお付き合いでした。正院は春には校門の桜、夏のホタル、そして晩秋から冬にかけて八丁の田のコハクチョウ、階段を上がれば対岸に見える越の山並み、壮大な自然と温かな正院地区の人々に見守られて成長してきました。4人だけの同級生はどうでしたか？複式の授業や上級生としての責任の重さを共有しながら取り組んできた運動会や鼓笛パレード、4人でよく頑張りました。自慢していい事です。

4月からは中学生。

一言でいえば、「自立」を目指してください。

時には失敗し、うまくいかないかもしれません。でも、そこで「あきらめない心」と、「友達」を思い出してください。

私には忘れられない正院小の風景があります、ふれあい集会の全校ダンス、曲は「友よ、この先もずっと……」。

歌詞の中に、いい事ばかりじゃない、この先の僕らの毎日に これだけはずっと言える 本当ありがとう…友よ 今の困難な状況を指しているようです。でも、乗り越えるとき、友の存在があった。

そして

もし君があてもなく 遠ざかる 星空を眺めていたら
言葉なく君のそばにいるから けして一人にはしないから
何十年先も 友達って思ってる。

なんとやさしく、すてきな詩でしょうか

人類は協力し合えば、どんな困難も克服できるはずです。これから先も友を信じ、歩んでいってください。

保護者の皆様。本日はご卒業おめでとうございます。(礼) 在校生が不在の卒業式となりましたが、私たち職員も在校生たちの思いも同じです。心からのお祝いを申し上げます。

皆さんの前途に幸多かれと 私の式辞といたします。

令和2年3月17日
珠洲市立正院小学校
校長 舟本 克之